

②「児童放課後等居場所(ひろば)事業」の課題

～練馬区生涯学習部生涯学習課学校応援団・開放係長 相馬まゆみさんに聞く～

練馬区は、小学校の余裕教室がないために「ひろば」の専有室がありません。放課後に空いている視聴覚室や会議室、家庭科室などを活用しているため、活動場所の確保が課題になっています。また、スタッフの確保やスタッフの世代交代、障害児の対応や事業運営の工夫等のスキルアップも大きな課題です。

練馬区では、これまで「ひろば」スタッフ向けに「子どもとの接し方」、「子どものケガの対応」、「読み聞かせ、本の選定」などの研修をそれぞれ年1回行ってきましたが、受講者から「スキルアップしたい」という声がありました。



③「学校応援団サポート講座 ねりまチャージ」

(1)平成21年度 練馬区学校応援団サポート講座「ねりまチャージ」一覧

(東京学芸大学提供資料)

No.	講座名	日時	会場	講師
練馬・春日町地区講座	① チャージ準備会	9月12日(土) 14:00～16:00	春日町図書館 会議室	鉄矢 悦朗(東京学芸大学准教授) 山田 修平(学芸大こども未来プロジェクト研究員)
	② 遊びとは何か (遊びの実践-低コスト・少準備の あそびの紹介-)	10月24日(土) 14:00～16:00	春日小学校 視聴覚室	山田 修平(学芸大こども未来プロジェクト研究員)
	③ ひろば交流サポート	11月1日(日) 10:00～12:00	春日町青少年館 教室	鉄矢 悦朗(東京学芸大学准教授) 山田 修平(学芸大こども未来プロジェクト研究員)
	④ 気がかりな子どもへの接し方	12月12日(土) 10:00～12:00	春日町青少年館 教室	田坂 裕子 (昭和音楽大学講師・学校心理士・臨床発達心理士)
	⑤ 問題解決や対処の方法を考える ワークショップ	1月29日(金) 10:00～12:00	春日町青少年館 教室	角田 貴世 (学芸大こども未来プロジェクト研究員)
	⑥ 子どもとの距離の取り方	12月7日(月) 10:00～12:00	春日町青少年館 教室	角田 貴世 (学芸大こども未来プロジェクト研究員)
関町・上石神井地区講座	① チャージ準備会	9月4日(金) 10:00～12:00	関区民ホール リハーサル室	鉄矢 悦朗(東京学芸大学准教授) 杉森 伸吉(東京学芸大学准教授) 山田 修平(学芸大こども未来プロジェクト研究員)
	② ひろば交流サポート	10月26日(月) 10:00～12:00	関区民ホール	鉄矢 悦朗(東京学芸大学准教授) 山田 修平(学芸大こども未来プロジェクト研究員)
	③ 造形ワークショップ 「子どものかかわり方・接し方を考える」 ～新聞紙の構造体を例に～	A:10月28日(水) B:11月 4日(水) A・B同内容14:30～16:30	A:10/28 関町小体育館 B:11/ 4 上石小体育館	鉄矢 悦朗 (東京学芸大学准教授)
	④ 気がかりな子どもへの接し方	11月5日(木) 10:00～12:00	関区民ホール リハーサル室	田坂 裕子 (昭和音楽大学講師・学校心理士・臨床発達心理士)
	⑤ 子どもに関わるソーシャルスキル (傾聴スキル)	11月26日(木) 10:00～12:00	関区民ホール	藤枝 静暁 (川口短期大学講師・臨床心理士・学校心理士)
	⑥ 問題解決や対処の方法を考える ワークショップ	12月10日(木) 10:00～12:00	関区民ホール	角田 貴世 (学芸大こども未来プロジェクト研究員)
全体講座	① がまんする力はどうやって育つのか?	1月18日(月) 10:00～12:00	石神井公園区民交流センター 2階集会室	大河原 美以 (東京学芸大学教授)
	② 地域の子どもは地域総がかりで育てよう ～学校の現状とサポート～	2月2日(火) 10:00～12:00	石神井公園区民交流センター 3階大会議室	松田 恵示(東京学芸大学准教授)
	③ 気がかりな子どもへの接し方	2月25日(木) 10:00～12:00	石神井公園区民交流センター 2階会議室2,3	田坂 裕子 (昭和音楽大学講師・学校心理士・臨床発達心理士)

(2)「ねりまチャージ」の特徴

～東京学芸大こども未来プロジェクト専門研究員 山田修平さんに聞く～

練馬区は大変広く小学校数も多いため、2つのモデル地区を設定し、講座を開きました。

講座を立案するために、「チャージ準備会」と称し、各「学校応援団」の代表者に集ってもらい、講座の日程と内容を決めていきました。講座で聴きたいことや都合の悪い日程などを講座の立案に反映させ、現場で生きて役立つ練馬のオリジナルな講座になるよう心がけました。

例えば、「となりの“ひろば”が何をしているのか知りたい」という要望から各“ひろば”の情報交換の場として「ひろば交流サポート」を設けたことなどです。

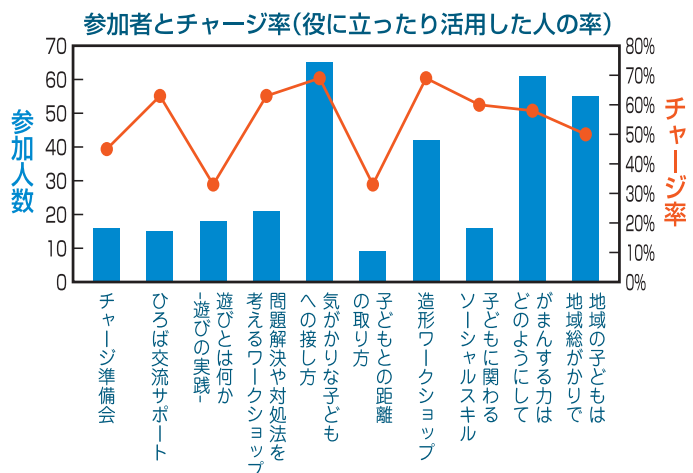
「造形ワークショップ」では、限られた場所や雨の日でもできる遊びとして、実際に子供たちと一緒に新聞紙で正二十面体の構造物をつくり、子供たちが動機づけされて物を作っていき様子を体験しながらの子供を交えた研修スタイルをとりました。(表紙写真)

「気がかりな子どもへの接し方」では、参加者を限定して個人情報の観点から守秘主義を課し、具体的な事例を検討していきました。

(3)「ねりまチャージ」参加者アンケートから

「ねりまチャージ」は、延べ332名が参加しました。

受講者と意見を出しあって作り上げた講座は、講座後、自分の活動に「役に立ったり活用した人」の割合(チャージ率)が約60%となっています。



注) 棒グラフは参加人数。折れ線グラフはチャージ率。